| 学校番号 | 1011 |
|---|---|

# 令和８年度　数学科

| 教科 | 数学 | 科目 | 数学Ａ | 単位数 | ２単位 | 年次 | １年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 最新「数学Ａ」　（数研出版） | | | | | | |
| 副教材等 | ３ＲＯＵＮＤ　数学Ⅰ＋Ａ　（数研出版） | | | | | | |

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学的活動を通して，「なぜそうなるのか？」と関心を持つことを大切にしましょう。
そして課題に取り組むうえで、何故そのように考えることができるのかを言語化できるようにすることも心がけましょう。
学習方法：
・授業の時間を大切にしましょう
　その日習うことをしっかり体得してください。教員の解説を聞き、鉛筆を動かして問題を解き、自分の考えを発表したり、周りの人の意見を聞いたりしてください。
・復習の時間をとりましょう
　５～１０分程度、その日に習ったことを復習しましょう。この積み重ねがあなた自身の学力向上につながります。

2　学習の到達目標

　数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
（１）　場合の数と確率、図形の性質については、基本的な知識・技能の定着として公式活用を最優先する。その結果、具体的な計算問題等を解くことができるようにする。数学と人間の活動の関係については、身の回りに潜んでいる数学についての認識を深めた上、上記と同様に具体的な計算問題等を解くことができるようにする。
（２）　不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、文章から図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の形などから図形の性質を見いだす力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、論理的に考察できる。
（３）　数学的論拠に基づいて、どの数学的手段を用いるか判断するために思考しようとする態度、自ら粘り強く考え、その上で問題解決の過程を振り返ることで、考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。また、生徒同士で考察を話し合うことで、学習意欲を高めあう環境づくりができるようにする。

3　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 場合の数と確率、図形の性質については、基本的な知識・技能の定着として公式活用をして、具体的な計算問題等を解くことができるようになる。 | 不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、文章から図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の形などから図形の性質を見いだす力、そして事象を論理的に考察する力を身に付けることができる。 | 数学的論拠に基づいて、どの数学的手段を用いるか判断するために思考しようとしている。また、自ら粘り強く考え、その上で問題解決の過程を生徒同士で振り返ることで、考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 |
| 上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 | | | |

4　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 1学期 | 第1章　場合の数と確率 | 第1節　場合の数<br>1　集合<br>2　集合の要素の個数<br>3　樹形図･和の法則･積の法則<br>4　順列<br>5　円順列と重複順列<br>6　組合せ | a:数学的な記号をはじめ、様々な場合の数を区別することができ、それぞれの具体的な計算方法を理解し、場合の数を求めることができる。<br>b:①ベン図を利用して、集合を図示することで、集合の要素の個数を求めることができる。②積の法則から順列の公式を、順列の考えから円順列、重複順列の違いを、順列の総数から組合せの総数を考察することができる。<br>③順列、円順列、重複順列の違いを理解しようとする。また、組合せの考え方から、組み分けの方法や同じものを含む順列の考え方を理解しようとする。<br>c:①日常語の「かつ」「または」「…でない」との関連を認識しようとする。<br>②順列、円順列、重複順列の違いや、組合せの考え方から、組み分けの方法や同じものを含む順列の考え方などの問題に対して自分なりに表現しようとしている。 | 定期考査<br>小テスト | 定期考査<br>課題提出 | 課題提出<br>観察 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2学期 | 第1章　場合の数と確率 | 第2節　確率<br>7　確率の意味<br>8　確率の計算<br>9　確率の基本性質<br>10　和事象の確率<br>11　余事象の確率<br>12　独立な試行の確率<br>13　反復試行の確率<br>14　条件付き確率<br>15　期待値 | a:①事象を集合で表すことができる。<br>②確率の意味、試行や事象の定義を理解し、和事象や余事象の確率、独立な試行の確率、反復試行の確率を、公式を元に求めることができる。<br>④期待値の意味を理解することができる。<br>b:①不確定な事象を、同様に確からしいという概念をもとに数量的にとらえることができる。<br>②補集合をもとに余事象を考察すること、また反復試行の確率を、具体的な例から直感的に考察し、問題を解くことができる。<br>③加法定理や乗法定理を用いて、条件付き確率を求めることができる。<br>④求めた期待値から、どのようなことが読み取れるか情報を読み取ることができる。<br>c:①身近な試行によって起こる事象と関連付けながら、実験などを通して確率に興味・関心をもつ<br>②くじ引きの確率が、引く順番に関係なく等しくなることを具体的な問題を通して、理解しようと努めている。 | 定期考査<br>小テスト | 定期考査<br>課題提出 | 課題提出<br>観察 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3学期 | 第2章　図形の性質 | 第1節　三角形の性質<br>1　角の二等分線と比<br>2　三角形の外心、内心<br>重心<br>3　チェバの定理、メネラウスの定理 | a:①三角形の内角・外角の二等分線と比の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。<br>②外心・内心・重心の性質を用いて、具体的な問題を処理することができる。<br>③三角形の面積と線分の比の性質を用いて面積比を求めることができる。<br>④チェバの定理・メネラウスの定理を用いて、線分比を求めることができる。<br>b:適当な補助線を引き、問題解決にアプローチをかけることができる。<br>c:①内心・外心・重心の成り立ちを理解しようとしている。<br>②面積と線分の比の性質からチェバの定理・メネラウスの定理を導けることを理解しようとしている。 | 定期考査<br>確認テスト | 定期考査<br>課題提出 | 課題提出<br>観察 |
| | | 第2節　円の性質<br>4　円周角の定理<br>5　円に内接する四角形<br>6　円と接線<br>7　接線と弦の作る角<br>8　方べきの定理<br>9　2つの円 | a:①円の性質を用いて、角の大きさや4点が同一円周上にあることを調べることができる。<br>②円に内接する四角形の性質を用いて、角の大きさを求めることができる。 | 定期考査<br>小テスト | 定期考査<br>課題提出 | 課題提出<br>観察 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | ③接弦定理や方べきの定理から角の大きさや線分の長さを求めることができる。<br>b:<br>①円周角の定理や円に内接する四角形の性質の成り立ちを考えることができる。<br>②円と直線の位置関係や円同士の位置関係にいろいろな場合があることに気づき、それぞれの場合の性質を考える。<br>c:<br>三角形の外接円と四角形の外接円の違いを認識し、円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を考察しようとしている。 | | | |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度